三重県多気郡明和町
斎宮跡埋蔵文化財調査報告23

史跡 斎宮跡

平成17年度現状変更緊急発掘調査報告

平成19(2007)年3月

明和町

序

史跡斎宮跡は平成21年度には指定30周年を迎えます。指定以来10年ごとに三重県による大規模史跡整備がなされ、町も来訪者対策として、施設等の周辺整備を行なってきました。指定30周年に向けての整備は、『史跡斎宮跡整備基本構想』に「遺構の学術的復元整備ゾーン」として位置付けられた史跡東部について、県が「史跡整備の在り方検討会」を設置し、今年１年間をかけ方向性を出す作業をしていただいております。整備候補地は、内院・中院・外院の３つが上げられておりますが、発掘調査の成果や公有化の進捗率、維持管理、活用といった多方面から検討作業が進められております。史跡東部での実物大建物の復元は、史跡保存のために協力をいただいた地元地権者の方々も願っていることでもあります。また、町はこれらの計画が具体化してくると同時に周辺整備を行い、多くの人たちが憩の場所として活用してもらえるように努力する必要があると考えています。いずれにしましても、地元地権者の協力なしでは実現できないものであります。

さて、この報告書は、平成16年度～17年度に提出された現状変更等許可申請の中で平成17年度に事前発掘調査が実施された14件の結果についてまとめたものです。

現状変更に伴う調査は、第147-8次調査のように比較的まとまったものや、浄化槽のような非常に小さなものなど規模は様々です。また、調査場所は広い史跡内を点在していますが、これらの成果の積み重ねが斎宮跡を解き明かすものと思っています。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者のみなさま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究課の方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成19（2007）年３月

三重県多気郡明和町

町　長　　中　井　幸　充

例　　言

1　本書は、平成17（2005）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査結果をまとめたものである。

2　本書に掲載した調査のうち第147-3～6・9・11次調査の６件は公共事業等として事業者（明和町）が費用負担したが、それ以外については国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。

3　調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡課が現地調査を担当した。

4　調査区名の表示方法（例：６ＡＬ８）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館　2003）による。

5　遺構の平面図は、過年度の調査成果との整合を図るため、測地成果2000施行以前の旧国土座標第Ⅵ系に相当する座標系を用いて表現しているが、国土地理院がWeb上で公開する変換ソフトによる世界測地系へ変換したデータも試みに掲載した。

6　遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』（斎宮歴史博物館　2001）を基準とした。

7　遺構冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。
ＳＡ；柱列・塀　　ＳＢ；掘立柱建物　　ＳＤ；溝　　ＳＥ；井戸　　ＳＦ；道路
ＳＫ；土坑　　ＳＨ；竪穴住居　　ＳＺ；落込み等　　ＳＸ；墓・不明遺構

8　遺物の実測図は、実物を４分の１に縮小して表示の基本としている。

9　調査資料類は、斎宮歴史博物館で一括保管している。

10　本書の執筆は、当該年度の担当者である水橋公恵（斎宮歴史博物館）、小濵学・竹内英昭（三重県埋蔵文化財センター）、中野敦夫（明和町斎宮跡課）が行い、編集は大川勝宏（斎宮歴史博物館）と中野が行った。

目　　次

Ⅰ　前　　言 …… 1

Ⅱ　調査報告
1　第147-1次調査 …… 2
2　第147-2次調査 …… 2
3　第147-3・4・5次調査 …… 2
4　第147-6・9次調査 …… 3
5　第147-7次調査 …… 3
6　第147-8次調査 …… 3
7　第147-10次調査 …… 3
8　第147-11次調査 …… 11
9　第147-12次調査 …… 11
10　第147-13次調査 …… 11
11　第147-14次調査 …… 11
12　第147次調査における国土座標の変換 …… 12

付編　史跡現状変更等許可申請 …… 14

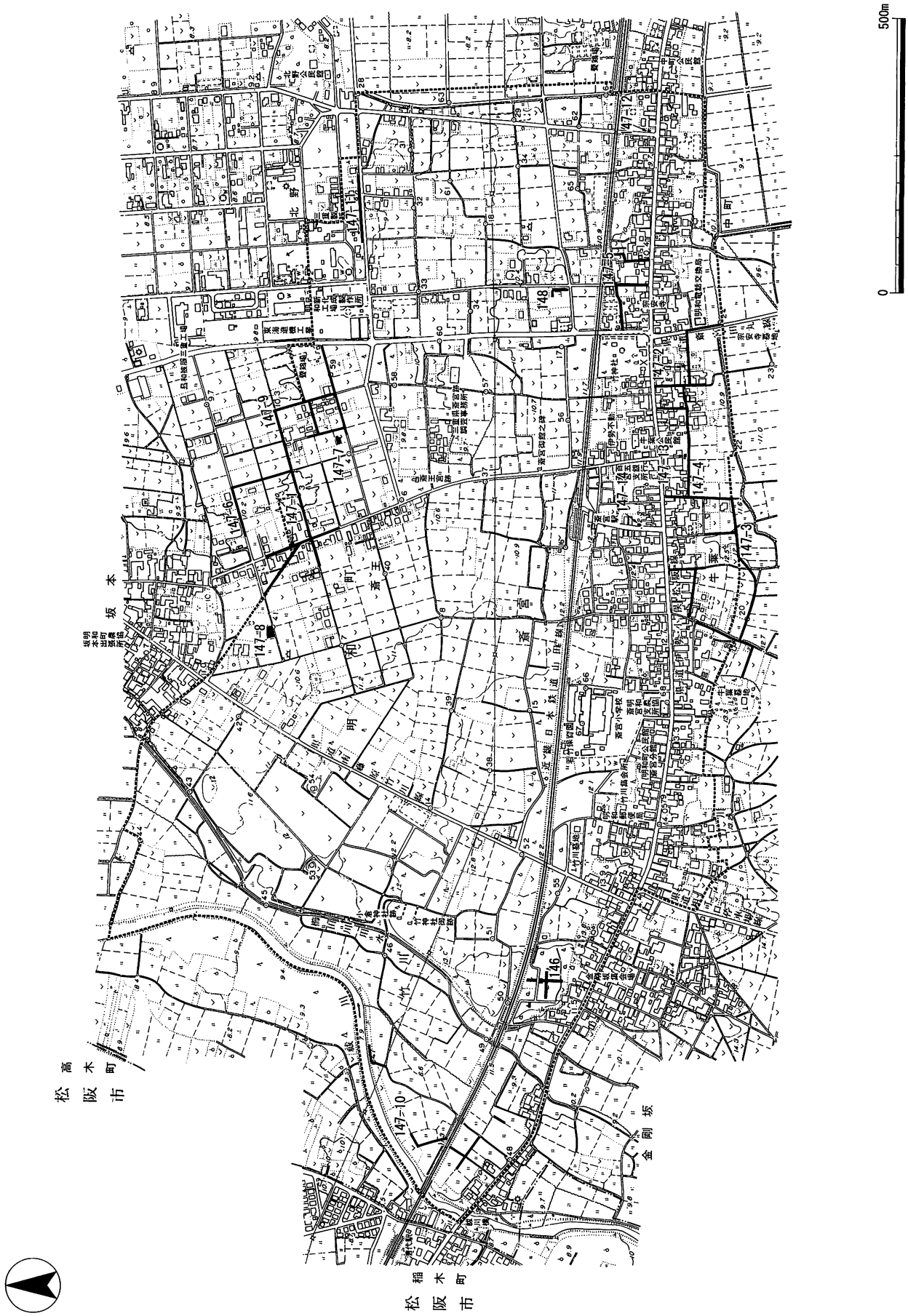
表・挿図目次

［表］1　史跡現状変更等許可申請の推移 …… 1
2　第147次調査　遺構一覧表 …… 12
3　第147次調査　掘立柱建物一覧表 …… 12
4　第147次調査　出土遺物観察表 …… 13
5　平成17年度現状変更等許可申請一覧表 …… 15

［図］1　史跡地内発掘調査位置図
2　調査区位置図①（1:4000） …… 4
3　調査区位置図②（1:4000） …… 5
4　調査区位置図③（1:4000） …… 6
5　遺構平面図①（1:200） …… 7
6　遺構平面図②（1:200） …… 8
7　土層断面図①（1:100） …… 9
8　土層断面図②（1:100） …… 10
9　遺物実測図（1:4） …… 13

写 真 図 版

1　第147-2・4次調査　上：２次調査区全景（北から）　下：４次調査区（東から）
2　第147-4・7次調査　上：４次調査区（西から）　下：７次調査　調査前風景（南から）
3　第147-7次調査　上：調査区全景（南から）　下：ＳＫ9580（南西から）
4　第147-7・8次調査　上：７次調査　ＳＫ9577（南から）　下：８次調査　調査前風景（北から）
5　第147-8次調査　上：調査区全景（西から）　下：ＳＢ9584・9585（北から）
6　第147-8・14次調査　上：８次調査　ＳＤ9582（西から）　下：14次調査　調査区全景（南西から）



第１図　史跡地内発掘調査位置図（1：10,000）

Ⅰ　前　　言

斎宮跡は、平成17年度で史跡指定をうけて27年を経過する。この間、年間50件程度の調査目的以外での現状変更等許可申請が出されている。平成17年度は31件で、例年よりやや少ない件数であった。その内訳は道路・側溝改修、上水道埋設、下水道布設、個人住居の新築・増改築、史跡整備などである。

近年の傾向としては、耐震構造を備えた住宅の建設が増加してきている。また、下水道布設といった社会資本の整備や環境保全への配慮も社会の流れといえ、それを史跡保存という文化財保護の一観点から止めることは難しいと感じる。個人の財産権・生活権もあり、そのような行為を行政上認めていかなければならないのだろう。ただ、このような事業が史跡地内で実施された場合、下部遺構の保護という文化財保護行政側の課題とは、相容れないものとならざるを得ない。国民の共有財産である史跡という側面と、人々が生活する空間としての史跡という２つの相容れない側面をもっている斎宮跡において、今後どのようにそのことを両立させていくのか難しい課題でもある。史跡と人々が生活する空間の共生を目指し、更に努力しなければならない。

環境への影響を踏まえ、個人住宅の浄化槽設置は、当該年度も申請が多くあった。工事自体が遺構検出面まで達する事例が多い。しかし、学術調査がほとんど実施されていない住宅密集地内の調査となることが多く、調査対象面積は狭小であっても調査記録は極めて重要で、史跡の解明に有効である。当該年度も、方格地割の側溝や史跡範囲北端での掘立柱建物を確認する等の重要な成果がえることができた。

（小濵　学）

年　度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積（㎡）	うち補助金調査件数	同調査面積（㎡）
昭和54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	45	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
計	1,186	309	59,174	177	23,030

第１表　史跡現状変更等許可申請の推移

Ⅱ 調 査 報 告

1 第147-1次調査（６ＡＯ６）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字出在家3230-3、-4

原　　因 建物改築等

調査期間 平成17年６月９日

調査面積 3.0㎡

概況） 調査地は、斎王の森から北250ｍに位置する住宅地内（第四種保存地区）である。建物の老朽化による既存建物の一部解体と増改築、及び浄化槽（７人槽）埋設の現状変更のうち、浄化槽埋設場所（長さ2.5ｍ×幅1.2ｍ）について調査を行った。基本層序については、上から、表土、客土（茶褐色土・褐色土）、地山（浅黄橙色粘質土）であった。現況地盤の標高は10.462ｍ、地山面は標高9.497ｍである。遺構・遺物とも確認されなかった。（水橋公恵）

2 第147-2次調査（６ＡＲ13）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉572-2

原　　因 建物改築等

調査期間 平成17年６月17日

調査面積 3.0㎡

概況） 調査地は、竹神社から南100ｍ付近に位置する宅地である。現地表面の標高は約11.3ｍである。既設の物置を解体撤去後、住宅の建築及び合併浄化槽の埋設を行うものである。物置部分と住宅建築部分は、立会いの結果地下遺構に影響はないことが判明した。浄化槽部分については、柱穴４基を確認することができた。調査対象部分が狭小であるため、建物などを構成するものであるのかはわからなかった。遺構検出面は橙色土層で、標高約10.8ｍ前後で確認することができた。（小濵　学）

3 第147-3・4・5次調査（６ＡＬ～Ｒ13、Ｌ５・６）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字木葉山、鈴池、中西地内

原　　因 上水道管改修工事

調査期間 平成17年６月21日～10月10日

調査面積 1,858㎡

概況） 調査地は、史跡内牛葉・中町地区の道路敷地内に所在する。便宜上、１工区を第147-3次調査、２工区を第147-4次調査、追加工事部分については第147-5次調査とした。全体でいえることだが、概ね現地表面から約50～90㎝下で遺構検出面を確認することができた。まず、第147-3次調査について述べたい。第６図147-3Ｂにあるような長径50㎝程度の柱穴群を確認した。建物に関わるものと考えられるが調査区が狭小であるため判然としない。第６図147-3Ｄでは幅70㎝程度のＳＤ9572を確認した。これまでの調査成果から、木葉山西区画西辺の方格地割側溝に関連するものと考えられる。これら以外については、古代～中世にかけてのＳＤ9571、柱穴群を確認した。一部では後世の撹乱を受け遺構・遺物を確認できない部分もみられた。次に、第147-4次調査について述べたい。第６図147-4Ｂにあるような幅80㎝程度のＳＤ9574を確認した。これまでの調査成果から、鈴池西区画西辺の方格地割の側溝に関連するものと考えられる。この地割に平行する木葉山東区画東辺の地割は後世の撹乱により確認できなかった。これら以外については、古代～中世にかけての溝、柱穴群を確認したが、先述のように、一部では後世の撹乱を受け遺構・遺物を確認できない部分もみられた。第147-5次調査では、第６図147-5にあるようなＳＤ9575を確認した。一部では後世の撹乱を受け遺構・遺物を確認できない部分もみられた。（小濵　学）

４　第147-6・9次調査（６ＡＯ５・６、Ｐ５・６、Ｑ６・７、６ＡＮ６、Ｏ６、Ｐ６、Ｏ７、Ｑ７、Ｒ７）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮地内

原　　因　下水道管布設

調査期間　平成17年８月５日～12月15日

調査面積　544.5㎡

概況）　調査地は、史跡中央部北端の住宅密集地である。町道敷地内に幅1.0ｍの掘削をおこない下水道管を布設するものである。便宜上、19・20工区を147-6次調査、21工区を147-9次調査とした。遺構としては柱穴、溝、鎌倉大溝、土坑を検出している。なお、詳細については正式報告に譲りたい。ここでは、調査位置を示すにとどめたいと思う。（中野敦夫）

５　第147-7次調査（６ＡＰ・Ｑ７）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字楽殿2890-5

原　　因　建物建築

調査期間　平成17年11月７日～22日

調査面積　60㎡

概況）　調査地は、斎王の森から北東約200ｍに位置し、現況は畑地で、その部分に住宅建築を行うものである。現地表面の標高は約11.6ｍである。遺構検出面は橙色粘質土層の上面で確認することができた。標高10.7ｍ前後で確認した。調査の成果としては、古代～中世に属すると考えられる土坑５基、溝１条・時期不祥の柱穴を多数確認した。ＳＫ9576は井戸である可能性もある。出土遺物については、斎宮編年Ⅱ～Ⅲ期に属するものが中心であった。（小濵　学）

６　第147-8次調査（６ＡＬ５・６）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字出在家3237-6、3233-10

原　　因　建物建築

調査期間　平成17年12月７日～平成18年１月16日

調査面積　260.7㎡

概況）　調査地は、斎宮歴史博物館から東300ｍ付近に位置する。現況は畑地で、その部分に住宅、農業用倉庫の建築を行うものである。現地表面の標高は約10.8ｍである。遺構は明黄褐色土層の上面で確認することができ、標高10.3ｍ前後で確認した。調査の成果を以下に述べる。ＳＢ9584は桁行１間以上、梁行１間以上、ＳＢ9585は桁行１間以上、梁行１間以上を調査区内で確認した。調査区外に延びていくようである。平安時代、斎宮編年Ⅱ期のものと考えられる。これら以外にも、中世に属すると考えられる溝２条・時期不祥の柱穴を多数確認することができた。この調査地の南方の第142-４次調査では庇を持つと思われるＳＢ8828が確認されている。方格地割の北方に広がる掘立柱建物群の展開と史跡範囲の北限を考える上で貴重な成果をえることができた。（小濵　学）

７　第147-10次調査（６ＡＥ８、Ｄ８・９）

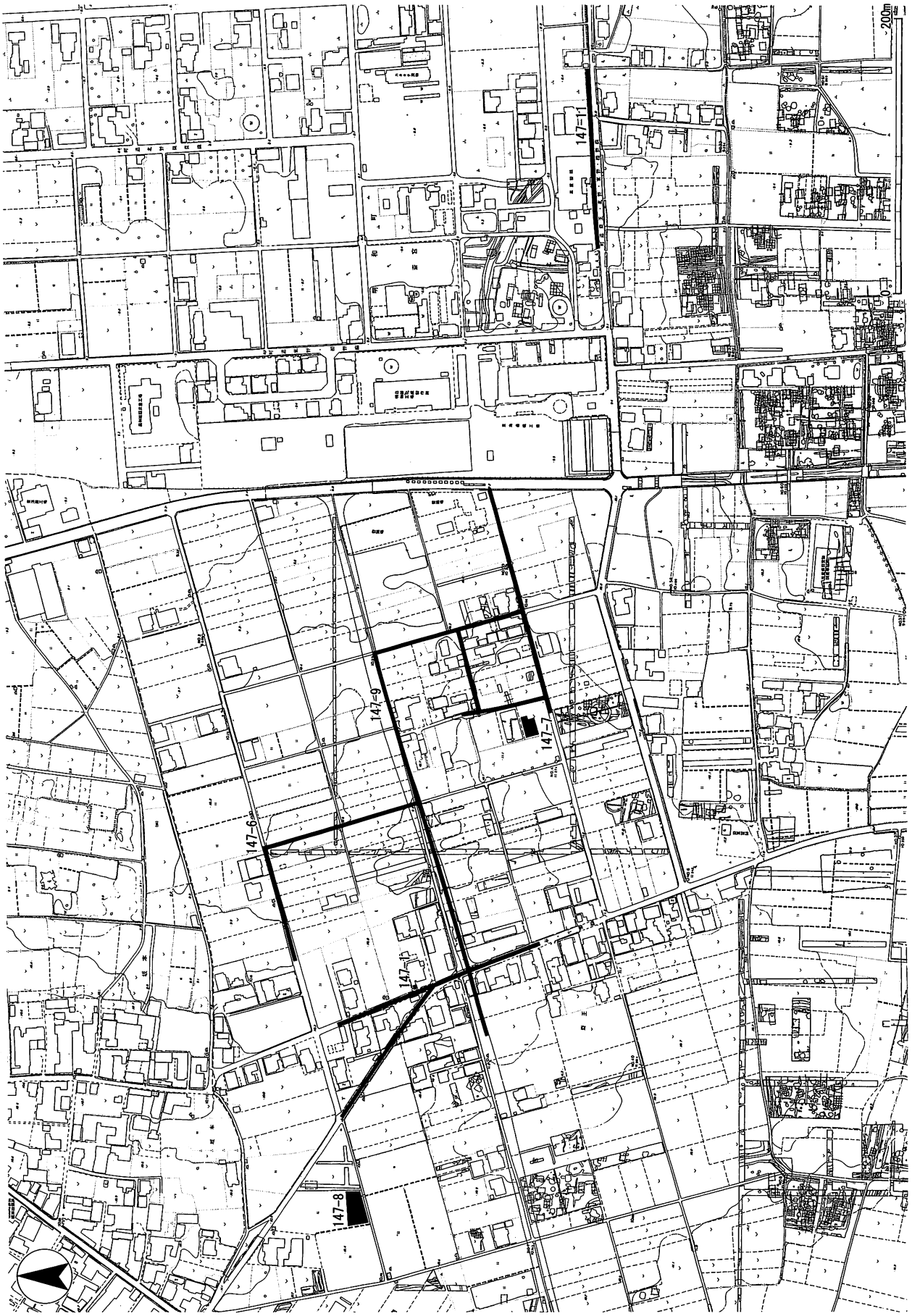
調査場所　多気郡明和町大字竹川字秡戸地内

原　　因　側溝新設

調査期間　平成18年２月15日

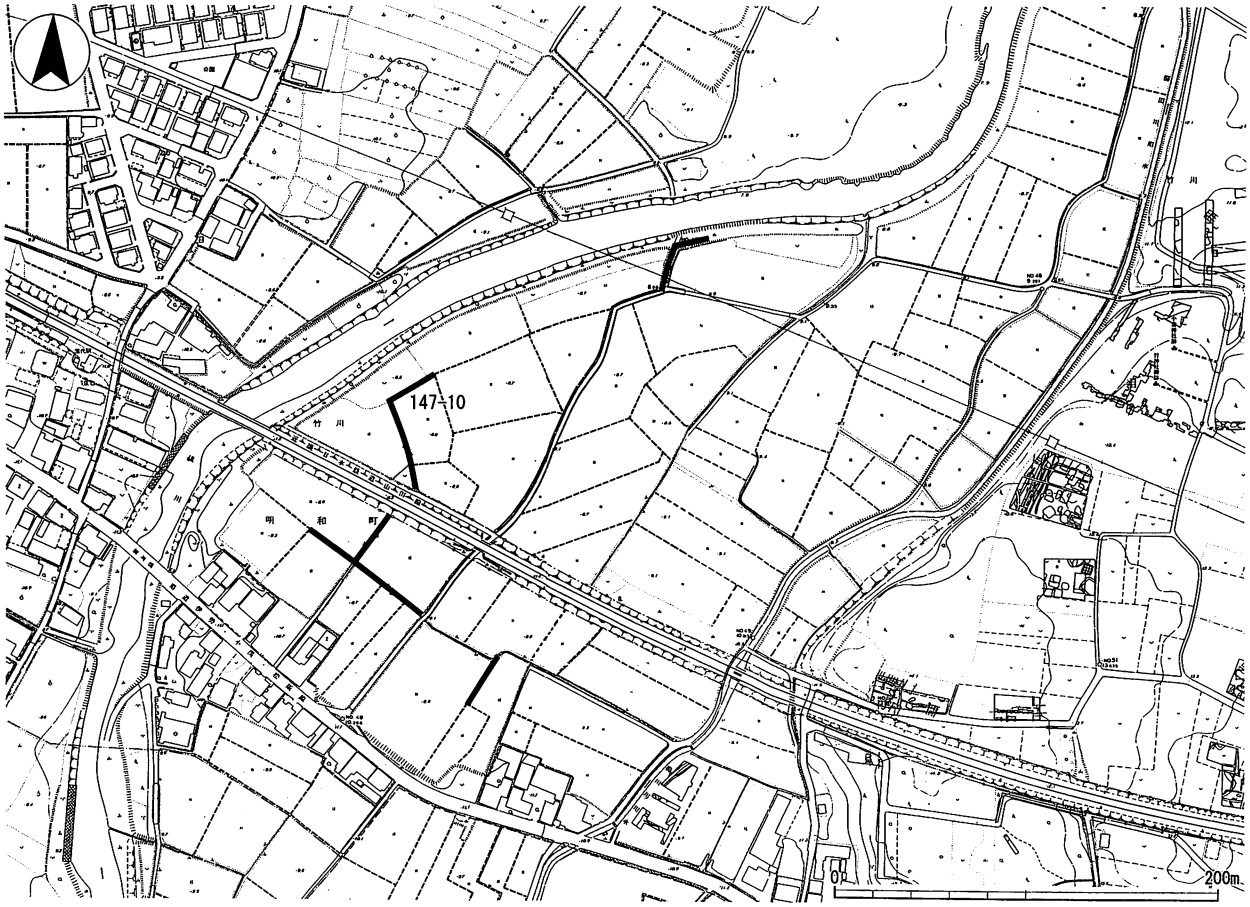
調査面積　0.6㎡

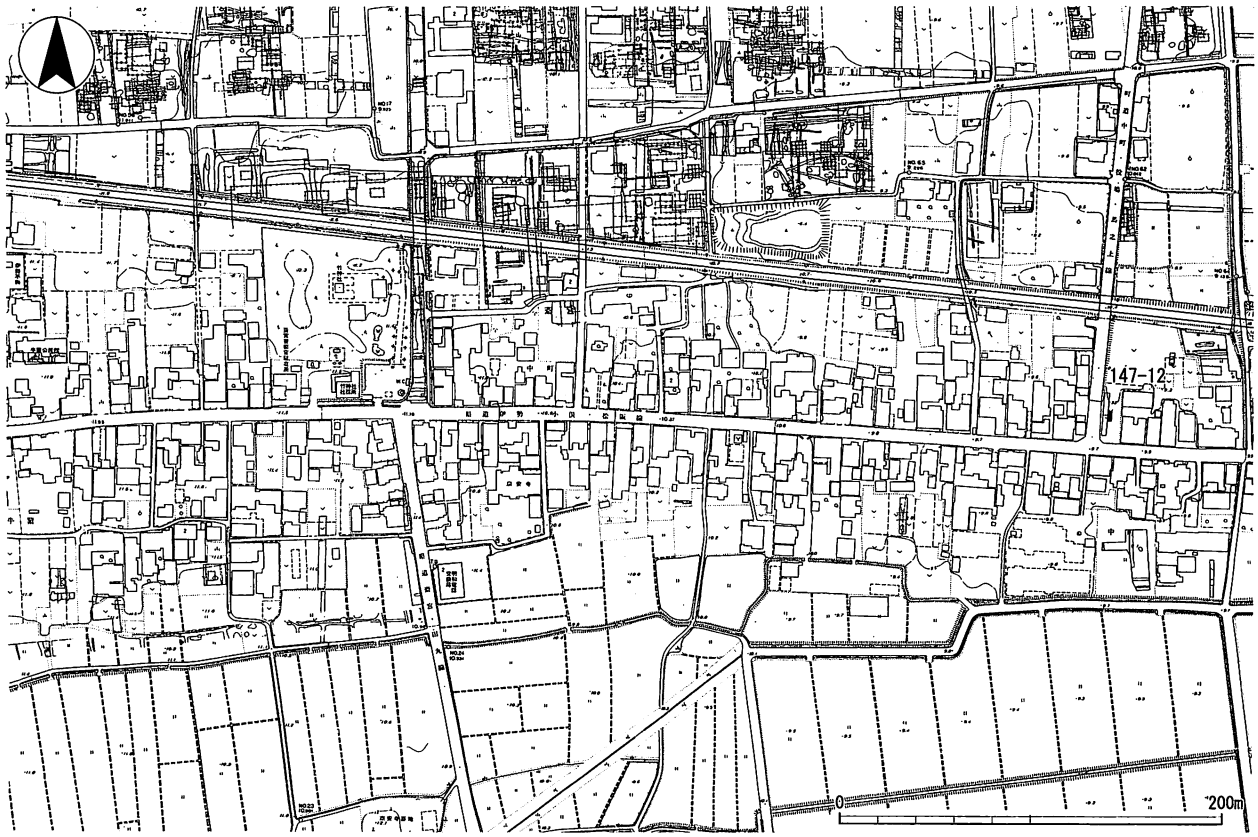
概況）　史跡西部に位置する明和町所有の道路敷沿いにおける側溝新設に伴う緊急調査である。基本層序については、現況地盤の上から、耕作土、砂利であった。最も深い場所で28センチ掘削したが、遺構面に達せず、遺物も出土しなかった。（水橋公恵）



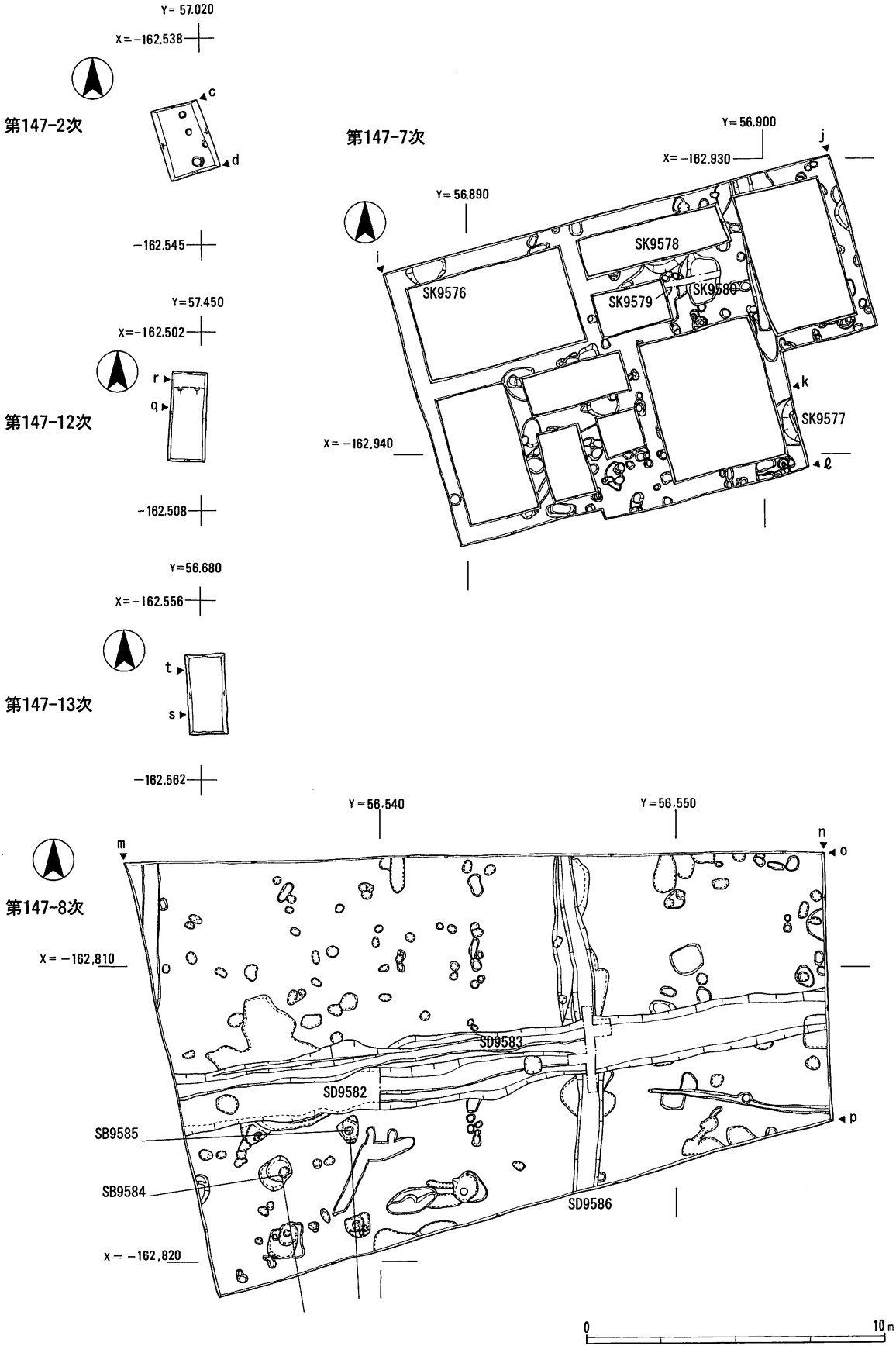
第２図　調査区位置図①（1：4,000）

第３図　調査区位置図②（1：4,000）

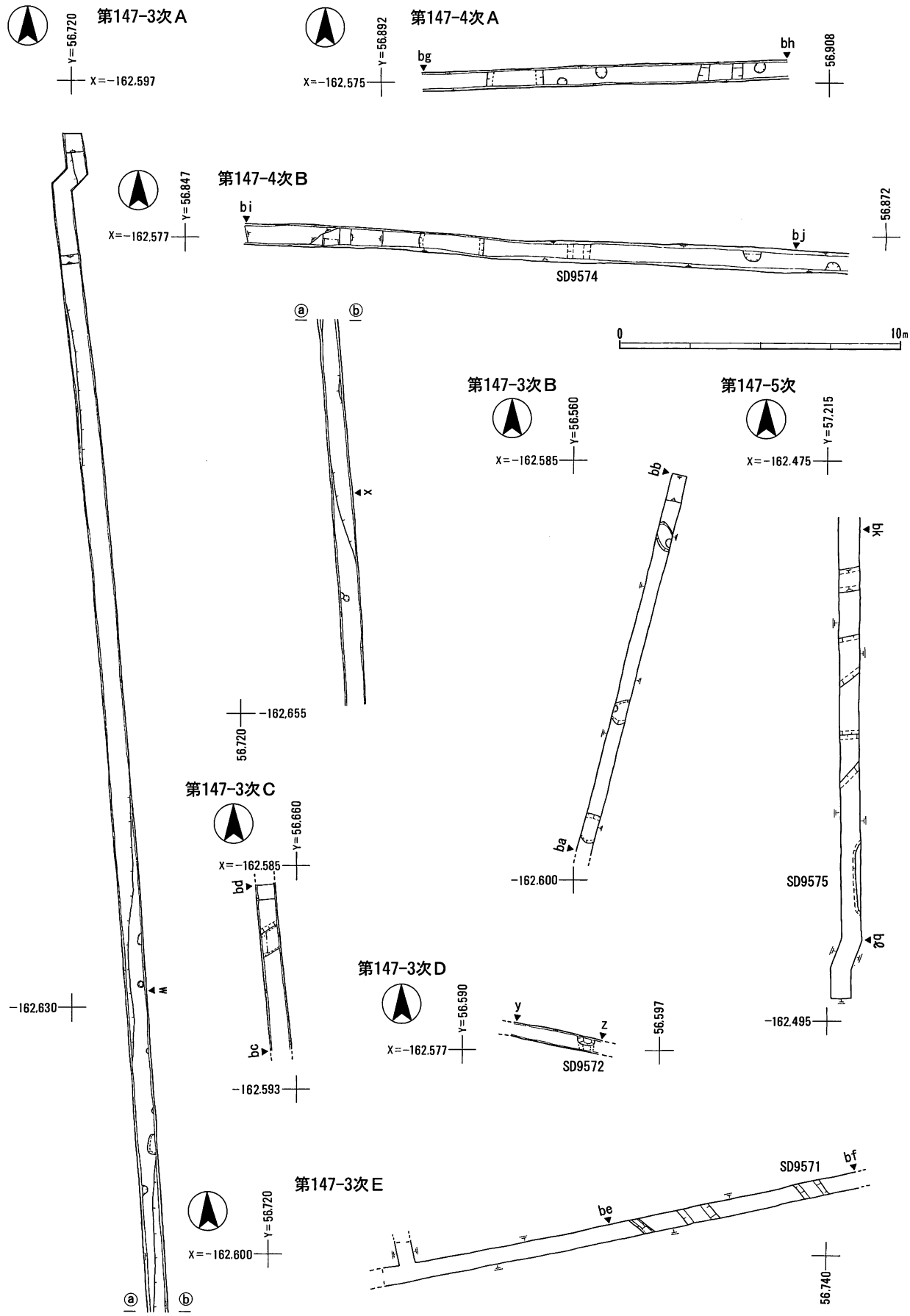




第４図　調査区位置図③（1：4,000）



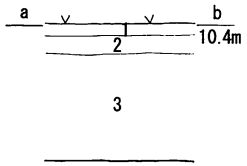
第５図　遺構平面図①（1：200）



第６図　遺構平面図②（1：200）

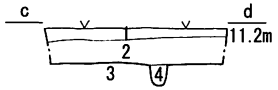
第7図　土層断面図①（1：100）

第147-1次



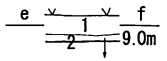
1　表土
2　暗褐色土
3　浅黄橙色土

第147-2次



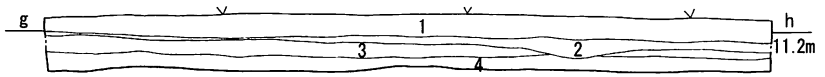
1　表土（砕石）
2　黒褐色土・7.5YR3/1
3　橙色土・7.5YR6/8
4　黒褐色土・2.5YR3/1に橙色土混入

第147-10次



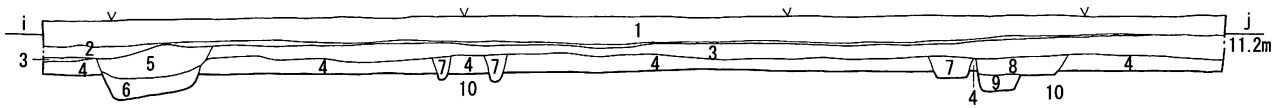
1　表土
2　砂利（続く）

第147-7次西壁



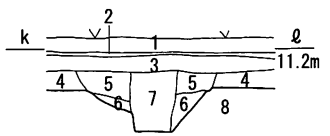
※北壁の土層番号と同じ。

第147-7次北壁



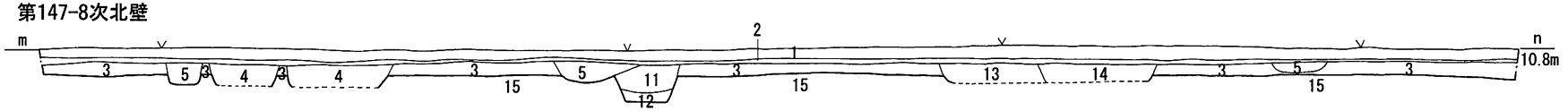
1　表土
2　盛土
3　盛土
4　黒色土・7.5YR2/1
5　にぶい橙色土・7.5YR6/4に6入る
6　褐灰色土・7.5YR4/1
7　黒褐色土・7.5YR3/1
8　暗褐色土・10YR3/3
9　黒褐色土・10YR2/2
10　橙色粘質土・7.5YR6/6

第147-7次



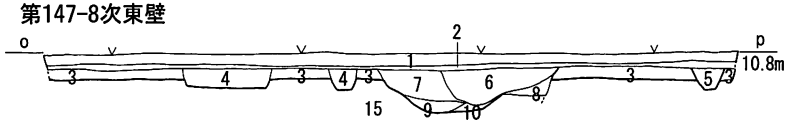
1　表土
2　盛土
3　黒色土・7.5YR2/1
4　黒褐色土・10YR2/2
5　黒褐色土・10YR2/2
6　黒褐色土・10YR3/2に8入る
7　黒色土・10YR1.7/1
8　橙色粘質土・7.5YR6/6

第147-8次北壁



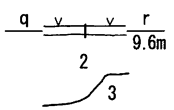
1　表土
2　床土
3　黒褐色土・10YR2/2
4　黒褐色土・2.5Y3/1
5　暗褐色土・10YR3/3に15混入
6　明黄褐色土・10YR7/6に7混入
7　黒褐色土・10YR3/2
8　黒色土・10YR2/1
9　黒褐色土・10YR3/1
10　黒褐色土・7.5YR3/2
11　黄灰色土・2.5Y4/1
12　黒褐色土・2.5Y3/2
13　褐灰色土・10YR5/1
14　褐灰色土・10YR4/1
15　明黄褐色土・2.5Y7/6

第147-8次東壁



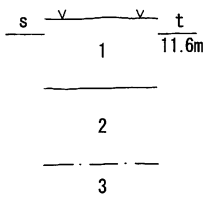
※北壁の土層番号と同じ。

第147-12次



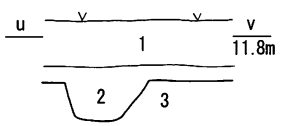
1　砕石
2　撹乱
3　明褐色粘土

第147-13次



1　表土
2　撹乱
3　黄褐色礫混土・2.5Y5/6

第147-14次

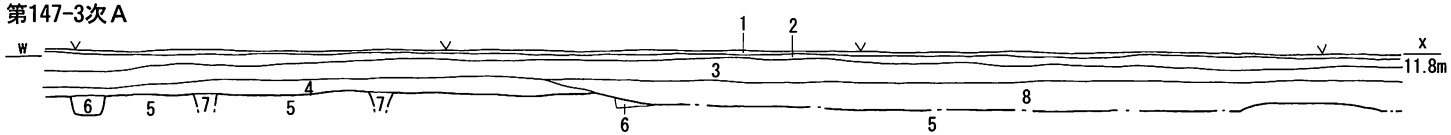


1　盛土・砕石
2　暗褐色土
3　橙色土

0　5m

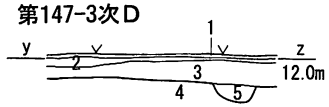
第8図　土層断面図②（1：100）

第147-3次A



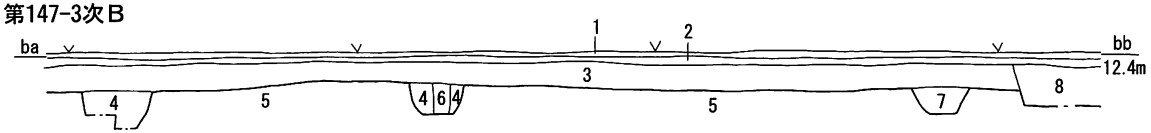
1　アスファルト
2　砕石
3　暗褐色礫混土
4　黒褐色土・10YR3/1
5　黄橙色粘質土
6　褐色粘質土
7　黒色粘質土
8　褐灰色礫混土

第147-3次D



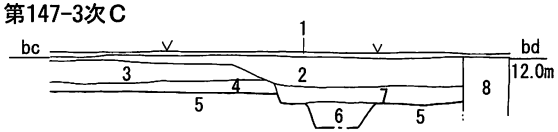
1　アスファルト
2　砕石
3　暗褐色粘質土
4　黄橙色粘質土
5　黒褐色土

第147-3次B



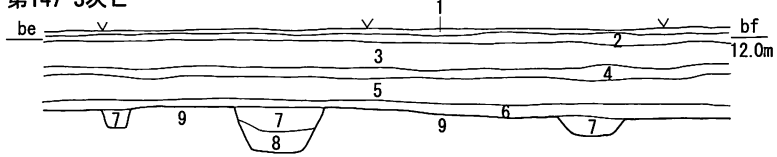
1　アスファルト
2　砕石
3　黒色粘質土・10YR3/1
4　黄灰色粘質土・2.5Y4/1
5　明黄褐色粘質土・2.5Y7/6
6　黄灰色粘質土・2.5Y6/1
7　黄灰色粘質土・2.5Y5/1
8　撹乱

第147-3次C



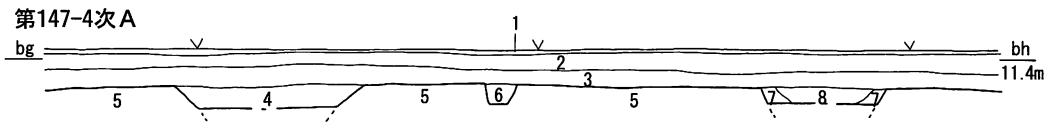
1　アスファルト
2　砕石
3　暗褐色土
4　黒色土
5　橙色土
6　暗褐色土
7　盛土
8　撹乱

第147-3次E



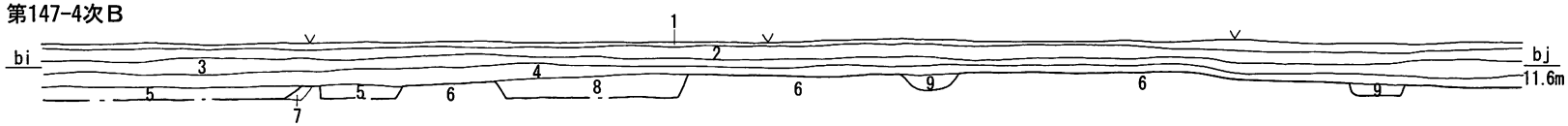
1　アスファルト
2　砕石
3　盛土
4　盛土
5　盛土
6　黒褐色粘質土・10YR3/1
7　オリーブ黒色粘質土・5Y3/1
8　灰色粘質土・5Y4/1
9　淡黄色粘質土・5Y8/3

第147-4次A



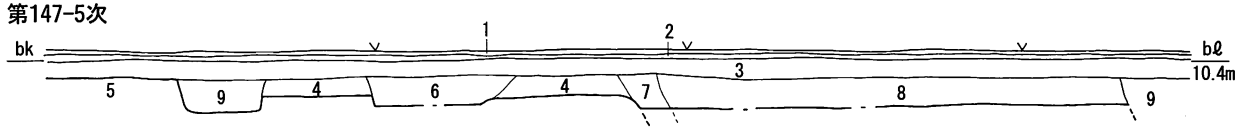
1　アスファルト
2　砕石
3　黒褐色土
4　黒褐色土に橙色土混入
5　橙色粘質土
6　暗褐色土
7　暗褐色土
8　明橙色土

第147-4次B

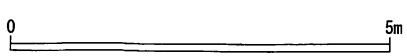


1　アスファルト
2　砕石
3　暗褐色土
4　黒褐色土
5　灰褐色粘質土
6　橙色粘質土
7　褐色土
8　黒色土
9　黒褐色土

第147-5次



1　アスファルト
2　砕石
3　盛土
4　黒褐色土
5　橙色粘質土
6　暗褐色土
7　明褐色土
8　暗褐色土
9　撹乱



８　第147-11次調査（６ＡＴ・Ｕ７）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字東前沖2505-4

原　　因　整備工事

調査期間　平成17年９月30日～平成18年２月16日

調査面積　261.7㎡

概況）　調査地は史跡の北東部に位置し、旧陸軍施設であった国有地約4,000㎡を史跡公園に整備するものである。造成に先立ち、敷地外周に側溝を設置する工事の立会い調査を実施した。その結果、すでに掘削等で撹乱を受けており、深い遺構である鎌倉大溝ＳＤ9129（ＳＤ0005）のみ確認することができた。

（中野敦夫）

９　第147-12次調査（６ＡＶ13）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字鈴池2342-5、-6

原　　因　建物改築

調査期間　平成17年10月26日

調査面積　3.3㎡

概況）　調査地は、竹神社から東350ｍに位置し、現況は宅地である。現地表面の標高は約9.7ｍである。住宅の建築及び合併浄化槽の埋設を行うものである。住宅建築部分は、立会いの結果地下遺構に影響はないことが判明した。浄化槽部分については、第64-8次調査と重複する部分もあり、撹乱を大きく受けているらしく遺構・遺物ともに確認することができなかった。遺構検出面は明褐色粘土層で、標高約9.1ｍ前後で確認することができた。

（竹内英昭）

10　第147-13次調査（６ＡＰ13）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字牛葉323

原　　因　建物建築等

調査期間　平成17年12月13日

調査面積　3.6㎡

概況）　調査地は、斎宮駅から南東約200ｍ付近に位置する。現況は宅地で、現況地盤の標高は11.7ｍ前後である。その部分に住宅建築と浄化槽の設置を行うものである。住宅建築部分は立会いの結果、地下遺構に影響がないことが判明した。浄化槽部分については、撹乱を大きく受けているらしく遺構・遺物ともに確認することができなかった。遺構検出面自体も大きく撹乱を受けているためか1.9ｍ掘削しても確認することができなかった。

（小濵　学）

11　第147-14次調査（６ＡＯ12）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字牛葉3026-15

原　　因　建物建築

調査期間　平成18年3月7日

調査面積　3.9㎡

概況）　斎宮駅から南100ｍ付近の駐車場（第三種保存地区）において、個人住宅の新築、合併浄化槽への取り替え及び付帯配管の埋設を行うものである。合併浄化槽部分で調査を行った。基本層序については、現況地盤の上から、盛土・砕石（住宅建設時）、暗褐色土（旧耕作土か）、橙色土（地山）であった。現況地盤から0.8ｍ、橙色土上面で遺構検出を行ったが、撹乱溝を確認したのみで遺物も出土しなかった。

（水橋公恵）

12　第147次調査における国土座標の変換

斎宮跡の発掘調査については、これまでの調査成果との継続性もあり、旧日本測地系の数値を使用している。ここでは、当報告書に掲載した調査区の座標値を世界測地系への変換し報告する。変換ソフトについては、国土地理院のホームページに公開されている「Web版TKY2JGD」を使用した。

＜第147-２次調査＞

(旧) X=-162,538、Y=57,020 ⇒ (新) X=-161,191.4892、Y=56,757.5117

(旧) X=-162,545、Y=57,020 ⇒ (新) X=-161,198.4893、Y=56,757.5116

＜第147-３次調査＞

(旧) X=-162,597、Y=56,720 ⇒ (新) X=-162,250.4897、Y=56,457.5110 *A

(旧) X=-162,655、Y=57,020 ⇒ (新) X=-162,308.4875、Y=56,757.5122 *A

(旧) X=-162,600、Y=51,560 ⇒ (新) X=-162,253.4899、Y=56,297.5162 *B

(旧) X=-162,585、Y=56,560 ⇒ (新) X=-162,238.4901、Y=56,297.5104 *B

(旧) X=-162,585、Y=56,660 ⇒ (新) X=-162,238.4900、Y=56,397.5106 *C

(旧) X=-162,593、Y=56,660 ⇒ (新) X=-162,246.4900、Y=56,397.5105 *C

(旧) X=-162,577、Y=56,590 ⇒ (新) X=-162,230.4902、Y=56,327.5104 *D

(旧) X=-162,577、Y=56,597 ⇒ (新) X=-162,230.4904、Y=56,334.5102 *D

(旧) X=-162,600、Y=57,720 ⇒ (新) X=-162,253.4849、Y=57,477.5143 *E

(旧) X=-162,600、Y=57,740 ⇒ (新) X=-162,253.4849、Y=57,477.5143 *E

＜第147-４次調査＞

(旧) X=-162,575、Y=56,892 ⇒ (新) X=-162,228.4893、Y=56,629.5115 *A

(旧) X=-162,575、Y=56,908 ⇒ (新) X=-162,228.4893、Y=56,645.5113 *A

(旧) X=-162,577、Y=56,847 ⇒ (新) X=-162,230.4894、Y=56,584.5112 *B

(旧) X=-162,577、Y=56,872 ⇒ (新) X=-162,230.4894、Y=56,609.5112 *B

＜第147-５次調査＞

(旧) X=-162,475、Y=57,215 ⇒ (新) X=-162,128.4895、Y=56,952.5122

(旧) X=-162,495、Y=57,215 ⇒ (新) X=-162,148.4891、Y=56,952.5123

＜第147-７次調査＞

(旧) X=-162,930、Y=56,900 ⇒ (新) X=-162,583.4834、Y=56,637.5129

(旧) X=-162,940、Y=56,890 ⇒ (新) X=-162,593.4836、Y=56,627.5129

＜第147-８次調査＞

(旧) X=-162,810、Y=56,550 ⇒ (新) X=-162,463.4865、Y=56,287.5112

(旧) X=-162,820、Y=56,540 ⇒ (新) X=-162,473.4863、Y=56,277.5112

＜第147-12次調査＞

(旧) X=-162,502、Y=57,450 ⇒ (新) X=-162,155.4880、Y=57,187.5132

(旧) X=-162,508、Y=57,450 ⇒ (新) X=-162,161.4880、Y=57,187.5130

＜第147-13次調査＞

(旧) X=-162,562、Y=56,680 ⇒ (新) X=-162,215.4902、Y=56,417.5106

(旧) X=-162,556、Y=56,680 ⇒ (新) X=-162,209.4903、Y=56,417.5103

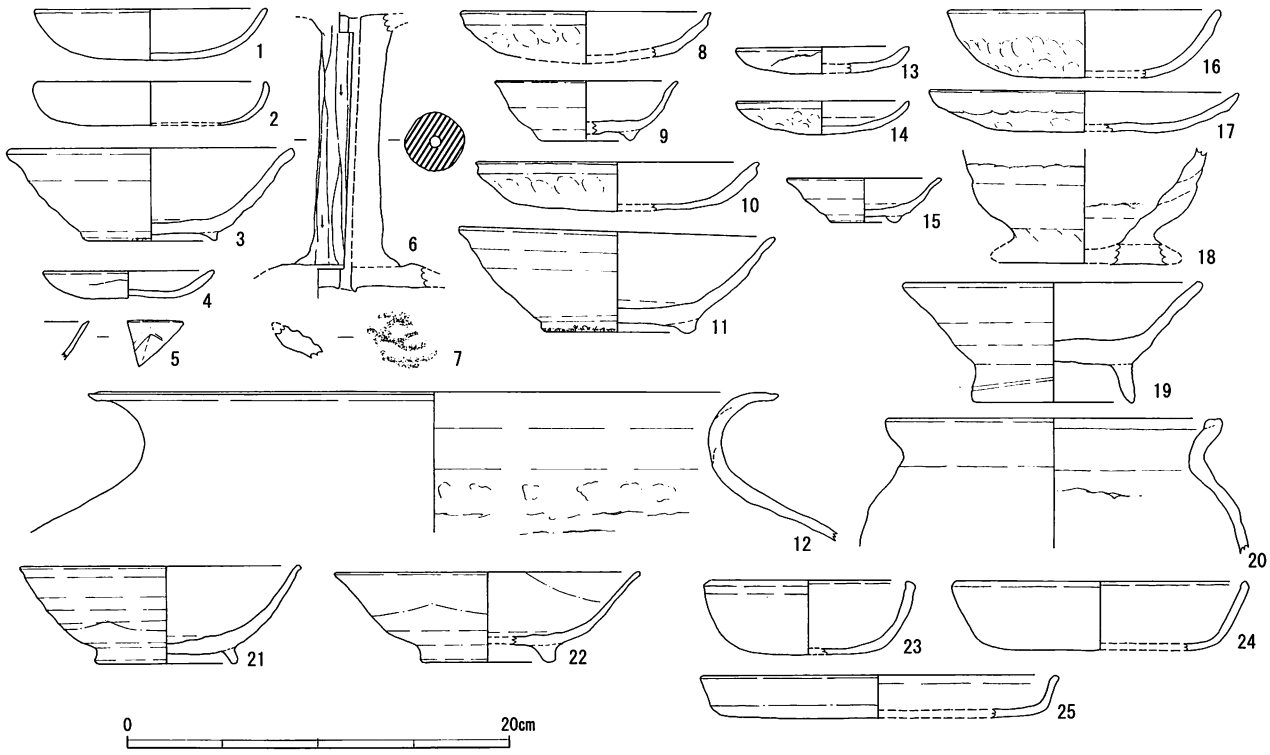
（小濵　学）

調査次数	遺構番号	遺構の種類	調査時遺構名	地　区	時期	斎宮編年	遺構の性格・遺物・その他
147-3	ＳＤ9570	溝	溝１		不明		なし
	ＳＤ9571	溝	溝３		不明		なし
	ＳＤ9572	溝	なし		不明		木葉山西区画の方格地割側溝
147-4	ＳＤ9573	溝	溝Ｂ		中世		陶器
	ＳＤ9574	溝	なし		不明		なし
147-5	ＳＤ9575	溝	なし		不明		鈴池西区画の方格地割側溝
147-7	ＳＫ9576	土坑	土坑１	P7　w9	室町		土師器：南伊勢系鍋　陶器片
	ＳＫ9577	土坑	土坑２	Q7　a10	平安？	Ⅱ－１	土師器：皿
	ＳＫ9578	土坑	土坑３	P7　y9	近世		施釉陶器：天目茶碗
	ＳＫ9579	土坑	土坑４	P7　y9	不明	Ⅲ	土師器：皿・甕　灰釉陶器片
	ＳＫ9580	土坑	土坑５	P7　y9	鎌倉	Ⅳ	土師器：杯・皿・甕　黒色土器片　須恵器：甕 陶器：椀（山茶椀）　白磁片
	ＳＫ9581	土坑	土坑６	P7　y9	古代		土師器：皿・甕
147-8	ＳＤ9582	溝	溝１	M6　I4	不明		土師器：杯・蓋・甕　陶器：椀（山茶椀）
	ＳＤ9583	溝	溝２		不明		なし
	ＳＤ9586	溝	なし		不明		なし
147-11	ＳＤ9129	溝	溝１		中世		鎌倉大溝（ＳＤ0005）と同一とみられる

第２表　遺構一覧表

調査次数	遺構番号	調査時遺構名	地区	ピット番号	ピット遺物	建物時期	規　模 東西間(m)×南北間(m)	柱　間 （東西－南北）	主軸	方位	備　考
147-8	ＳＢ9584	掘立１	j5	pit1	土師器：甕	Ⅱ	１(2.7) ×１(2.1)	3.2-3.2	不明	N10°W	柵列か？
	ＳＢ9585	掘立２	j4	pit1	土師器：甕	Ⅱ	１(3.2) ×１(3.2)	2.7-2.1	不明	N2°W	

第３表　掘立柱建物一覧表



第９図　遺物実測図（1：4）

No.	調査次数	出土遺構	器種	法量（cm）		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録No.
1	147-3	SD9571	土師器 皿	口径 器高	12.1 2.7	外：ナデ 内：ナデ	密 （～5.0mm白色粒含）	良	浅黄橙 10YR8／4	口縁部径の1/6		001-03
2		SD9571	土師器 皿	口径 器高	12.0 2.35	外：ナデ 内：ナデ	密 （～2.0mm白色粒含、赤色斑粒）	良	橙 7.5YR7／6	口縁部径の1/4		001-02
3		SD9571	陶器　椀 （山茶椀）	口径 器高 高台径	14.8 4.85 6.6	外：ロクロナデ→ハリツケナデ→回転糸切痕 内：ロクロナデ	密 （～2.0mm白色粒含）	良	灰白 2.5Y7／1	口縁部径の1/3 高台　ほぼ完形	内面自然釉あり 籾殻痕	001-01
4	147-7	SK9577	土師器 小皿	口径 器高	8.7 1.45	口：ヨコナデ 外：ナデ、オサエ 内：ナデ、オサエ	やや粗 （～1.0mm白色粒含）	良	外：灰白 10YR8／1 内：橙 5YR6／6	口縁部径の1/4		001-03
5		SK9578	白磁 椀	－	－	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	良	釉：灰白 946 素地：灰色 2.5Y8／2	口縁部径の1/12	外面に花文	003-10
6		6AP7 x10　pit3	土師器 高杯	残高	14.6	外：ケズリ、オサエ	並 （～5.0mm白色粒含、赤色斑粒）	良	黄橙 7.5YR8／8	全体の約30%		001-02
7		6AP7 y9　pit3	縄文 鉢	－	－	外面に浮文	並 （～3.0mm白色粒多含）	良	橙 7.5YR7／6	口縁部の一部		004-02
8		6AP7 x11　pit5	土師器 皿	口径	13.0	口：ヨコナデ 外：ナデ、オサエ 内：ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8／4	口縁部径の1/6		003-09
9		6AQ7 a7　pit2	陶器　小皿 （山皿）	口径 器高 高台径	9.4 3.2 4.6	口：ヨコナデ 外：ロクロナデ→ハリツケナデ→ナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰白 5Y7／1	口縁部径の1/12 高台径の1/2	内面自然釉あり 籾殻痕	002-01
10		6AP7 x11　pit2	土師器 皿	口径 器高	14.8 2.55	口：ヨコナデ 外：ナデ、オサエ 内：ナデ	密 （～4.0mm白色粒含）	良	灰白 2.5Y8／2	口縁部径の1/4		003-07
11		6AP7 x11　pit1	陶器　椀 （山茶椀）	口径 器高 高台径	16.35 5.3 7.4	口：ヨコナデ 外：ロクロナデ→ハリツケナデ→回転糸切痕 内：ロクロナデ	密 （～3.0mm白色粒含、赤色斑粒）	良	浅黄 2.5Y7／4	口縁部径の1/2 高台完存	内面自然釉あり 籾殻痕	001-04
12		6AP7 y11　pit2	陶器 甕	口径	34.0	外：ヨコナデ→ロクロナデ 内：ヨコナデ→ロクロナデ	密 （～6.0mm白色粒含）	良	釉：苔色 834 素地：灰黄 2.5Y7／2 断面：にぶい黄橙 10YR6／4	口縁部径の1/12		004-04
13		6AQ7 a9　包	土師器 小皿	口径 器高	8.8 1.4	外：ナデ 内：ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8／4	口縁部径の1/3	口縁部に油煙あり	002-02
14		6AP7 x11　包	土師器 小皿	口径 器高	9.0 1.8	口：ヨコナデ 外：ナデ、オサエ 内：ナデ	密	良	橙 7.5YR7／6	口縁部径の1/3		003-05
15		6AP7 a11　包	陶器　小皿 （山皿）	口径 器高 高台径	7.8 2.3 3.2	外：ロクロナデ→ハリツケナデ→回転糸切痕 内：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7／1	口縁部径の1/12 高台径の1/2	内面自然釉あり	002-05
16		6AP7 a11　包	土師器 皿	口径 器高	14.0 3.55	口：ヨコナデ 外：ナデ、オサエ 内：ナデ	並 （～2.0mm白色粒多含）	良	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部径の1/2		002-06
17		6AP7 x11　pit2	土師器 皿	口径 器高	16.0 2.15	外：ナデ、オサエ 内：ナデ	密	良	淡黄 2.5Y8／3	口縁部径の1/6	外面に付着物あり	003-08
18		6AP7 x10　包	ロクロ土師器 壺	残高	6.1	外：ナデ→回転糸切痕 内：ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8／3	全体の約30%		003-04
19		6AP7 a11　包	土師器 台付杯	口径 器高 高台径	15.2 6.35 7.9	外：ナデ→ハリツケナデ→回転糸切痕 内：ナデ	並 （～7.0mm白色粒多含）	良	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部径の1/4 高台ほぼ完存		002-09
20		6AP7 y11　包	土師器 甕	口径	17.2	口：ヨコナデ 外：ナデ、オサエ 内：ナデ	並 （～2.0mm白色粒含）	良	浅黄橙 10YR8／3	口縁部径の1/12		004-05
21		6AQ7 a9　包	灰釉陶器 椀	口径 器高 高台径	14.5 5.15 7.0	外：ロクロナデ→ハリツケナデ→回転糸切痕 内：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7／1	口縁部径の1/4 高台ほぼ完存		002-04
22		6AP7 x11　包	陶器　椀 （山茶椀）	口径 器高 高台径	15.9 4.75 6.1	外：ロクロナデ→ハリツケナデ→回転糸切痕？ 内：ロクロナデ	密	良	灰黄 2.5Y7／2	口縁部径の1/12 高台径の1/4	自然釉付着	003-06
23	147-8	6AM6 包	土師器 杯	口径 器高	10.2 3.9	口：ヨコナデ 外：ナデ 内：ナデ	密	良	橙 5YR6／6	口縁部径の1/4		001-02
24		6AM6 包	土師器 杯	口径	15.0	外：ヨコナデ→ナデ 内：ヨコナデ→ナデ	密	良	橙 5YR6／6	口縁部径の1/12		001-04
25		6AM6 包	土師器 皿	口径	18.4	外：ヨコナデ→ケズリ 内：ヨコナデ→ナデ	密	良	橙 5YR6／6	口縁部径の1/6		001-03

第４表　出土遺物観察表

付篇　史跡現状変更等許可申請

平成17年度中の史跡現状変更等許可申請は、31件提出された。前年度申請分も含め17年度中に発掘調査を行ったのは、16件であり、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が２件、史跡整備事業に伴うものが１件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが13件である。なお、本書に掲載している第147-1～4・12・13次調査の６件は前年度申請分である。

31件の申請のうち23件は、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館並びに明和町斎宮跡課職員の立会いのもとで実施している。

17年度の申請の内容は、一覧表（第４表）のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等の新築及び増築に伴うもので12件あった。３件については発掘調査が必要とされ、個人住宅等の建設に伴う浄化槽部分や基礎部分など（第147-7・8・14次調査）である。
他の９件（うち１件取下げ含む）については、個人住宅の建設や除去で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は14件の提出があった。その内容は、道路舗装工事が１件、上水及び下水道管の布設関係が４件、電柱及び支線等の新設及び撤去が３件、児童安全対策のための門扉、フェンスなど学校施設関係が３件ある。その内調査対象となったものは、側溝設置（第147-10次調査）、上水道管の改修（第147-5次調査）、下水道管布設（第147-6・9次調査）の4件である。そのほかは工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は、３件あり環境整備も含めた多目的広場として整備している史跡公園北野広場の関係であり、内容は、がれきの撤去、側溝の設置等である。

（D）発掘調査のための申請

この申請は２件（第146次・第148次調査）あり、三重県教育委員会が主体となり斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査で、860㎡が調査された。これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。

（中野敦夫）

	申　請　地	種別	申　請　者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備　考
1	斎宮字鍛冶山2354-2	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱の新設	H17.4.13	H17.5.11	1本	4	
2	斎宮字西前沖、東前沖地内	B	明和町（上下水道課）	道路の舗装	H17.5.2	H17.5.16	L=1,100m	4	
3	斎宮字楽殿、篠林、 出在家地内	B	明和町（上下水道課）	下水道管布設	H17.5.2	H17.6.17	L=3,260m	4	第147-6・9次調査
4	竹川字中垣内430-1他4筆	D	三重県教育委員会	発掘（計画）調査	H17.6.9	H17.7.1	630㎡	3	第146次調査
5	竹川字中垣内460-2	A	個人	排水管布設等	H17.5.20	H17.7.1	55.65㎡	4	
6	斎宮字西加座2764-1	D	三重県教育委員会	発掘（計画）調査	H17.6.9	H17.7.1	100㎡	1	第148次調査
7	斎宮字中西・鍛冶山地内	B	明和町（上下水道課）	水道管改修	H17.6.6	H17.7.1	L=206m	4	第147-5次調査
8	斎宮字東前沖2505-4	C	明和町（斎宮跡課）	整備工事	H17.6.17	H17.7.15	3,864㎡ L=126.7m	4	第147-11次調査
9	斎宮字牛葉332	A	個人	建物除去	H17.6.16	H17.7.15	5棟 134.75㎡	4	
10	斎宮字牛葉332	A	個人	個人住宅建築	H17.6.16	H17.7.15	126.98㎡	4	
11	斎宮字東加座2435-6	B	明和町（斎宮跡課）	側溝設置等	H17.7.5	H17.7.29	L=25.4m	3	
12	斎宮字広頭3385-2	B	斎宮小学校ＰＴＡ	門扉設置工事	H17.6.29	H17.8.12	1基	4	
13	竹川字東裏334-16	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱の移設	H17.7.6	H17.8.3	1本	4	
14	斎宮字西前沖2604-32ほか	B	明和町（上下水道課）	水道管埋設	H17.7.8	H17.9.2	L=3.0m	4	
15	斎宮字出在家3237-6 3233-10	A	個人	建物建築	H17.7.15	H17.9.16	218.19㎡	3	第147-8次調査
16	斎宮字広頭3385-2 3404-1	B	明和町教育委員会 （学校教育課）	門扉及び ネットフェンス設置工事	H17.7.13	H17.8.25	6箇所	4	
17	斎宮字塚山3276-15	B	西日本電信電話株式会社 三重支店	電話柱及び 支線の建替	H17.7.29	H17.8.23	電柱1本 支線2本	2	
18	斎宮字牛葉3026-15	A	個人	建物建築	H17.8.8	H17.10.11	134.96㎡	3	第147-14次調査
19	斎宮字楽殿2890-5	A	個人	建物建築	H16.8.22	H17.10.11	127.47㎡	3	第147-7次調査
20	斎宮字篠林3143-1、-2、-3	A	個人	ブロック塀の設置	H17.8.22	H17.9.5	L=54m	3	
21	斎宮字篠林3147-3	B	明和町（上下水道課）	プレハブ現場事務所及び プレハフ倉庫の設置	H17.9.6	H17.9.21	2棟	3	
22	斎宮字出在家3230-3、-4	A	個人	建物建築	H17.9.16	H17.11.18	63.76㎡	4	
23	斎宮字楽殿2918-4	C	明和町（斎宮跡課）	水道設備除去	H17.10.12	H17.11.28	L=2.8m	1	
24	斎宮字内山3020-11	A	個人	倉庫建築	H17.10.18	H17.11.18	30.40㎡	4	
25	竹川字馬渡648	B	個人	擁壁設置	H17.10.28	H18.1.20	L=53.0m	3	
26	竹川字祓戸地内	B	竹川自治会	側溝新設	H17.12.15	H18.1.20	L=256.0m	3	第147-10調査
27	斎宮字東前沖2505-4	C	明和町（斎宮跡課）	整備工事	H17.12.21	H18.1.30	L=131.4m	4	第147-11次調査
28	斎宮字内山3060-3 3061-2	A	個人	建物建築	H18.1.6	H18.3.17	120.06㎡	3	H18.6.23取り下げ
29	斎宮字楽殿2893-4	A	個人	建物増築	H18.1.30	H18.3.17	11.17㎡	4	
30	斎宮字内山3020-14	A	個人	塀解体・門扉取替・サンルーム及びテラス等新設	H18.2.13	H18.2.15	5箇所	4	
31	斎宮字広頭3385-2	A	明和町教育委員会 （学校教育課）	立木の伐根及び ネットフェンスの設置	H18.3.10	H18.3.16	1箇所	4	

第5表　平成17年度　現状変更等許可申請一覧表

報 告 書 抄 録

ふ り が な	しせきさいくうあと　へいせいじゅうななねんどげんじょうへんこうきんきゅうはっくつちょうさほうこく
書　　名	史 跡 斎 宮 跡　平 成 1 7 年 度 現 状 変 更 緊 急 発 掘 調 査 報 告 書
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	23
編 著 者 名	小濵　学・竹内英昭・水橋公恵・大川勝宏・中野敦夫
編 集 機 関	斎宮歴史博物館（調査研究課）・明和町（斎宮跡課）
所　在　地	〒515-0332　三重県多気郡明和町大字馬之上９４５番地　　TEL　0596（52）7126
発 行 年 月 日	西暦　２００７年　３月　30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
斎宮跡（さいくうあと）	多気郡明和町（たきぐんめいわちょう） 斎宮（さいくう）・竹川（たけがわ）	24442	210	34°31′55″ ～ 34°32′30″	136°36′16″ ～ 136°37′37″	20050401 ～ 20060331	全14件 合計 3,002㎡	史跡現状変更に伴う緊急発掘調査 （史跡斎宮跡第147次調査）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
斎宮跡第147次	官衙・集落	奈良　平安 鎌倉　室町以降	掘立柱建物 土坑　溝 落ち込み	土師器　須恵器 緑釉陶器　山茶椀 陶器	

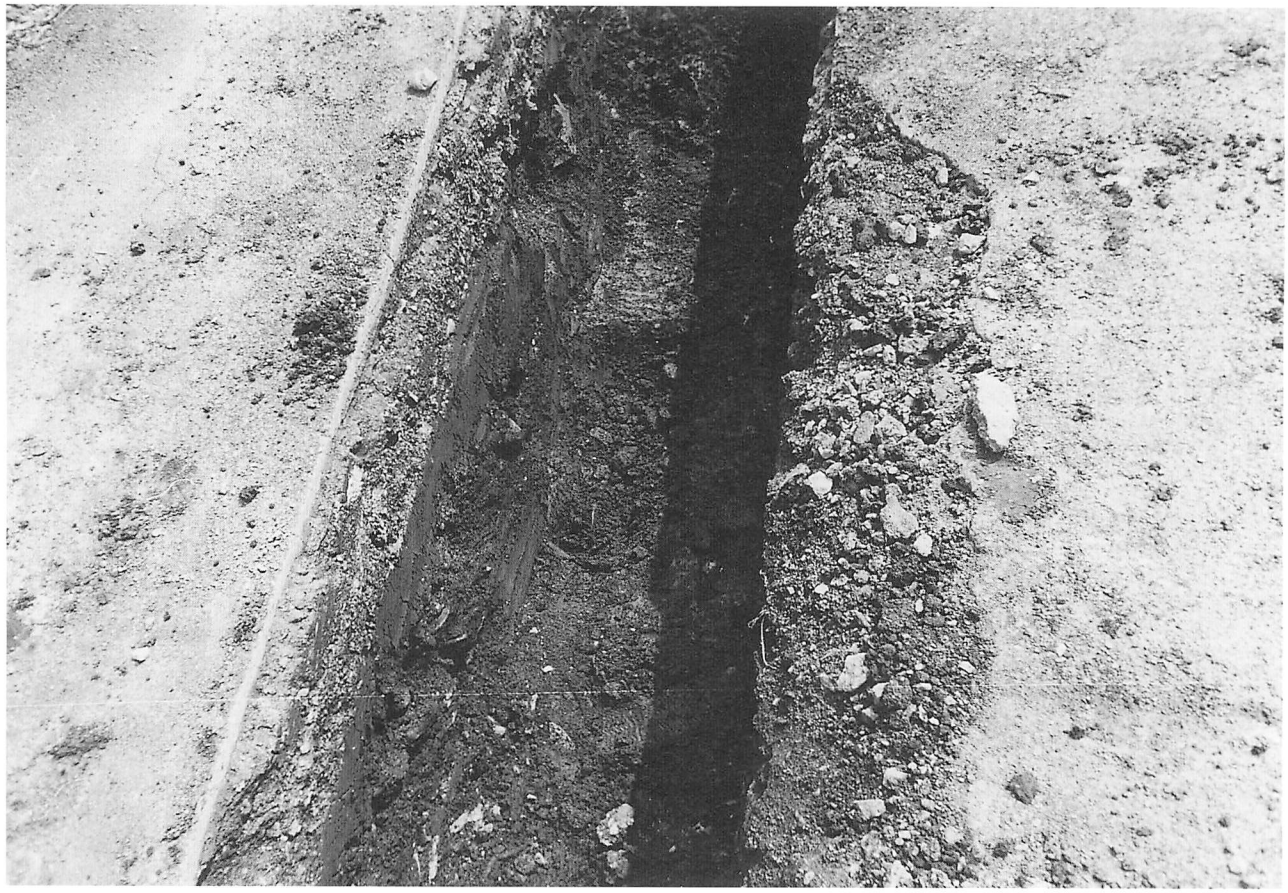
要　　約	第147-3・4・5次調査では、木葉山西区画西辺、鈴池西区画西辺の方格地割に関連するとみられる溝を確認することができ、古代～中世にかけての溝、柱穴群を確認したが、一部では後世の撹乱を受け遺構・遺物を確認できない部分もみられた。第147-6・9次調査では、柱穴、溝、鎌倉大溝、土坑といった遺構を検出した。第147-7次調査では、古代～中世に属すると考えられる土坑５基、溝１条・時期不祥の柱穴を多数確認した。第147-8次調査では、桁行１間以上、梁行１間以上の掘立柱建物を２棟確認し、方格地割の北方に広がる掘立柱建物群の展開と史跡範囲の北限を考える上で貴重な成果をえることができた。第147-11次調査では、すでに掘削等で撹乱を受けており、深い遺構である鎌倉大溝のみ確認することができた。

写 真 図 版

第147-2次調査　調査区全景（北から）

第147-4次調査　調査区（東から）

写真図版２



第147-4次調査　調査区（西から）

第147-7次調査　調査前風景（南から）

第147-7次調査　調査区全景（南から）

第147-7次調査　ＳＫ9580（南西から）

写真図版４

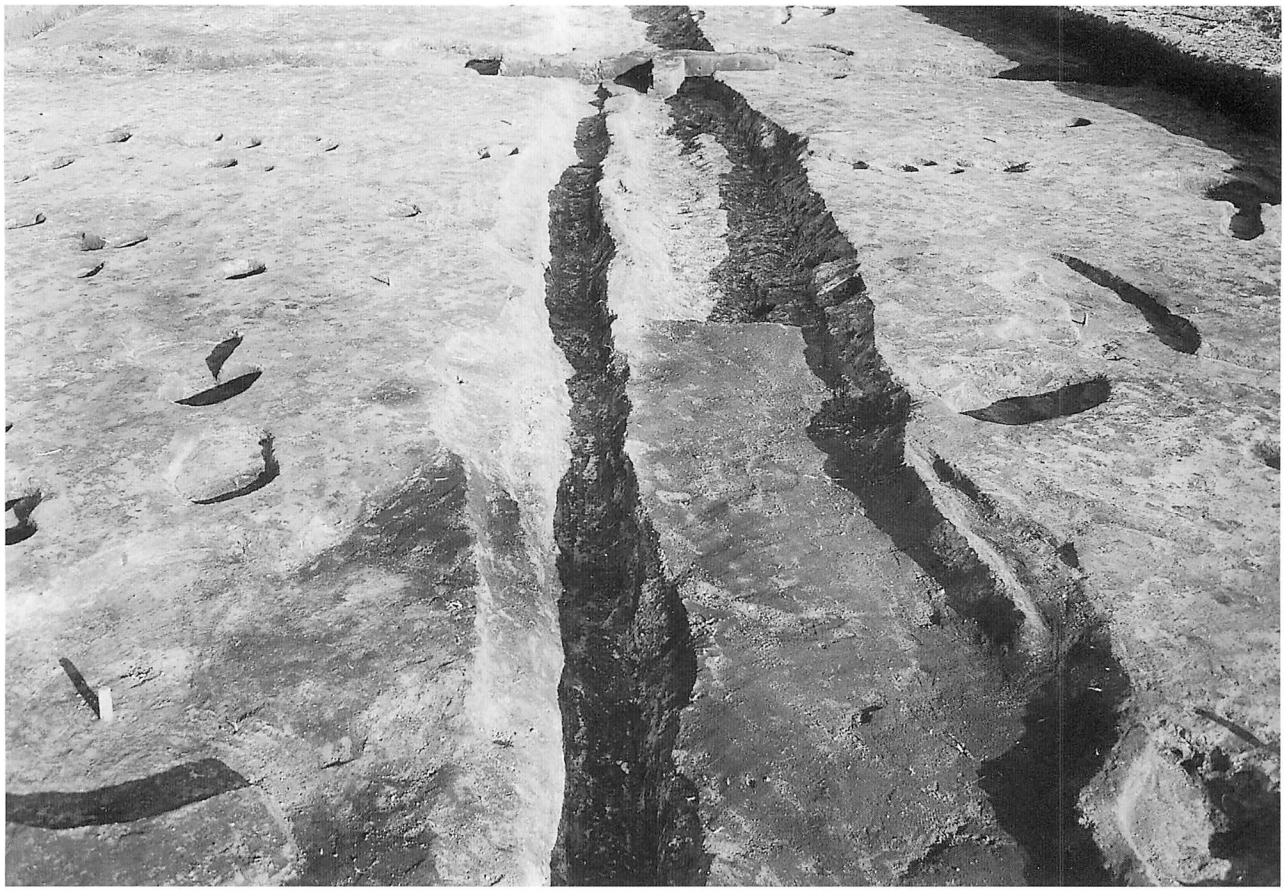
第147-7次調査　ＳＫ9577（南から）

第147-8次調査　調査前風景（北から）

第147-8次調査　調査区全景（西から）

第147-8次調査　ＳＢ9584・9585（北から）

写真図版６



第147-8次調査　ＳＤ9582（西から）

第147-14次調査　調査区全景（南西から）

史跡　**斎宮跡**

平成17年度

現状変更緊急発掘調査報告

平成19(2007)年3月30日

編　集　斎宮歴史博物館
　　明和町

発　行　明和町

印　刷　光出版印刷株式会社